

学校保健 知得情報 vol.4



平成20年12月発行

って

する

インフルエンザに注意を！

毎年流行を繰り返している、インフルエンザが発生しやすい時期となりました。インフルエンザの予防について次の事項に留意してください。

1 学校における管理

- (1) 毎日の出欠席の状況を把握する。
- (2) 健康観察を一層強化してインフルエンザ様疾患症状の児童生徒の早期発見に努め、事後措置の徹底を図る。
- (3) 採暖する場合は、室内の温度や湿度を適切に保持できるよう心がけるとともに換気についても十分配慮する。
なお、暖房器具周辺にいる児童生徒の温度管理に留意し、器具の配置等についても配慮する。
- (4) インフルエンザ予防流行前のワクチン接種は、罹患を予防するとともに、罹患した場合の重症化防止に有効との報告もあることから、予防接種の意義を関係者に周知する。



2 児童生徒に対する指導

- (1) 過度な厚着を避けるとともに、衣服の清潔、栄養の摂取、十分な休養睡眠、適度な運動等に留意させ、身体の抵抗力の増進を図る。
- (2) 運動や作業等により汗をかいた場合の処置等について十分に指導する。
- (3) 学校において、適時うがいや手洗いの励行を徹底する。
- (4) 家庭生活においても、帰宅時のうがいや手洗いの励行、入浴後の保温に注意する等、健康な日常生活を営むよう指導する。

化学物質過敏症マニュアル策定

新築校や改装、改築が行われた学校では気密性・断熱性の高い建築構造の校舎となっています。このような学校では建材の他、備え付け備品、持ち込まれる教材や管理の方法の影響によっては、教室内の空気環境は化学物質などの発生が考えられ、発育期の児童生徒への健康影響が懸念されています。

県教育委員会では、これまで国等からの情報の収集に努めてきましたが、様々な微量の化学物質に非常に敏感に反応する児童生徒の対応に苦慮している学校も見受けられています。

このような児童生徒へ対応するためには、当該疾病に対する教職員の理解を深めること及び健康被害を未然に防止することが重要であり、これらを目的とし、次の構成で現在マニュアルを策定しています。

- 1 室内空气中化学物質の基礎知識
- 2 室内空气中化学物質の測定
- 3 児童生徒に対する対応
- 4 関係法令と基準
- 5 医療・行政・民間の関連機関

お知らせ

脳脊髄液減少症について

「脳脊髄液減少症」については、知得情報vol.1と3でもお知らせしています。

「脳脊髄液減少症」等の病気などによる長期欠席者に対して、必要に応じ、養護教諭を含む教職員が家庭との連絡を密接に図り、学習面を含めた学校生活の様々な面について適切に対応するよう、指導をお願いしているところです。

詳しくは県ホームページをご覧ください。

アレルギー研修会開催について

日時 平成21年1月8日(木)
場所 千葉県文化会館

この「知得情報」は、校内で印刷し、職員全員に配布をお願いします。

第3期・4期麻しんワクチン接種状況がまとまりました

麻しんを予防する方法は、予防接種による方法しかありません。また、麻しんに罹患すると、肺炎や脳炎、中耳炎といった疾患が同時に起こってしまう可能性があり発症者の1,000人に1人は命を落とすといわれています。

県立学校における麻しんワクチン接種状況 (平成20年9月末現在)

| | 児童生徒数(人) | 接種者数(人) | 接種率(%) |
|------|----------|---------|--------|
| 13歳計 | 436 | 258 | 59.2 |
| 18歳計 | 30,060 | 14,461 | 48.1 |
| 総計 | 30,496 | 14,719 | 48.3 |

国では、麻しんを2012年までに撲滅することとしており、これには接種率95%以上が必要です。中学1年生・高校3年生に相当する年齢の者は無料で予防接種ができます。まだ接種を受けられていない方は、早めに医療機関に行きましょう。詳しくは居住地の市町村予防接種担当局にお問い合わせください。

よく噛んで味わう ~咀嚼の重要性~

「食」は人が生きていく上での基本であり、その中で「咀嚼」は重要な位置を占めています。しっかり噛んで味わうことは、子どもの健全な体の成長や心の豊かさに影響します。また、五感を刺激し、豊かな感性を育むことになり、生涯の食の選択や食習慣に直結します。

一方で、よく噛まない子どもは以前と比べ、未だに増加傾向にあります。よく噛まない子どもが増加している背景には、食生活が欧米化し、軟らかい食べ物を好むようになったこと、インスタント食品やレトルト食品など、調理済み食品が増加したことなどが考えられます。

各学校においては、「咀嚼」については、家庭との連携を図り、その重要性について理解と協力を得ることが重要です。よく噛んで食べることの大切さを、健康教育の重要なテーマとして取り上げ、学んだ知識が学校給食の場で活用・実践できるような指導が重要になります。『よく噛んで味わう』を子ども達自身が日常化できるような指導を計画的・継続的にお願いします。

噛めない子どもの食事態度

- 上手に飲み込めない
- 前歯で物を噛む
- 口の中に物をためる
- やわらかい物が好き 等

よく噛むことの効果

- 肥満防止
- 味覚の発達
- 歯の病気予防
- 胃の働きを助ける 等

『咀嚼』に関する学習テーマ例

- 噛むことの大切さを知ろう
- 噛むことと唾液の関係を探ろう
- 食材と噛む回数との関係を調べよう
- 噛むことと口と全身の健康の関係を知ろう 等

教職員こころの健康相談(電話相談)

教職員の心の健康状態に関して、気軽に相談でき、心の健康の快復や保持増進に役立てていただくための事業です。

電話を通して、カウンセラーが心身の悩みや職場・家庭などに関する相談に応じ、病院や診療所の紹介なども行っています。

対象者は、教職員本人及びその家族や管理職等です。

(ただし、相談は教職員本人についてのものに限りです。)

相談時間 毎週月～金曜日(祝祭日を除く)午後1時～5時

043-223-4617

※上記の電話相談以外にも、公立学校共済組合で行っている相談事業があります。詳しくは千葉県教育委員会のホームページ、またはDiary2008のp32～p35をご覧ください。



この「知得情報」は、校内で印刷し、職員全員に配布をお願いします。

発行:千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課 TEL043-223-4092